



## 子どもの心の健康講座 ⑪

### 発達障害(1)

子どもの精神科でもご相談に乗ることの多い発達障害。昨今メディアで目にするものが多くなり、よく聞くことはあってもその中身についてははつきりと知らないかな…、という方もおられるのではないのでしょうか。今月から発達障害とは何か、その対処はどうしたらいいのかをご紹介します。

「授業中、先生のお話をみんなが静かに聞いている中、キョロキョロ周りを見回す」「他の子にちよっかいをかけるなど落ち着きがなく、何度も注意され嫌がられるのに、繰り返して怒られることが多い」「忘れ物やなくしものごとでも多く、注意されて反省しているように見えても何度も繰り返す」「ほかの人が話をしている時、途中で割り込んで自分の話を始めてしまふ」というお子さんをご存知ではありませんか。

「一緒に遊んだり勉強する時、ぐずぐず遅れたり参加しない」「自分のルールにとってもこだわり、相手に合わられず、少しでも自分の考えと違ふと怒ったりかんしゃくを起す」「相手の気持ちや立場を分かることが極端に苦手で、とても

自己中心的に見える」と極端に自分本位な性格と感ずる場合も見受けられます。「人混み、大きな音、まぶしい場所、何かの匂いや味などを極端に嫌がる」「自分の着る服にとってもこだわる」「ほかの人と一緒に喜び合ったり、一緒に何かをやりたがることとともにも少ない」と他人と一緒に行動、価値の共有を嫌う場合も。

「場の空気を読めず、真正直であることにごこだわり、級友に煙たがられる」「自分の大好きな遊びに没頭すると周りが見えなくなり、ずっと続けてしまふ」「いろいろなことをよく理解できなのに、文字を書いたり計算をすることが極端に苦手で避ける」など、一つのことにも極端なこだわりを見せることもあります。

これらはある程度、みんなが持ち合わせています。しかし極端でいつも見受けられ、いくつの特徴を持ち合わせてくると、周囲になじんで社会生活をするのがとても大変になっていきます。

**孤立し、怒られ、自信をなくして生きづらさに苦しまないために**

「落ち着きがない」「忘れっぽい」「人との付き合い合いが不器用」「こだわりの強い」「言葉の深い理解が難しい」など発達障害の多彩な特徴は、脳の働き方の個性によって現れます。基本的には生まれつき、もしくは妊娠中から始まり、生涯を通じてその個性とつきあうこととなります。原因は、いくつかの遺伝子の働きが重なってできた

本人の脳の個性が大きな部分を占めます。ほかに家庭、近所、保育施設、学校などで他人と接するうちに、あるいは育ち、時には妊娠中の母親の喫煙などが重なって障害の状態が決まると考えられています。

「配慮を必要とする子ども」について、文部科学省が全国の学校の先生の協力で調査したところ、発達障害の特徴を持つ子どもの割合は6・5%だったそうです。さまざまなタイプの発達障害を合わせると、子どもたちの1割程度は発達障害といえる特徴があり、何らかの支援が必要ようです。

皆さんのお子さんは果たしてどうでしょうか？ 発達障害と分かってくることが大切なのです。

発達障害による個人的な行動、理解の仕方、対人関係によって幼少期から周りどぶつかったり、孤立したり、失敗し、怒られることを重ねてしまふ、それが原因で自尊心が低くなってしまうと、成長するにつれて自信をなくし、その結果とても生きづらくなり、時にうつ病など精神的な症状につながってしまうからです。また発達障害と分かると、勉強や対人関係で得られる

はずの理解や助けを得られず、見えないハンデキャップで苦しみ、必要なスキルを身につけられない場合もあります。

個人の努力によって大きく変えられる、というものではないので、自分の特徴をきちんと分かっていることで本人が一番苦しむことが多いようです。

このような場合、専門家の助けを借りて本人の特徴、個性への理解を深めて支援した方が本人の持ち味や能力を発揮出来、より快適に暮らせるようになることがあります。

自分の個性を知り、うまくその個性と付き合うコツを身につけ、発達障害としての個性も含めて周りに受容されることで、生き生きと育っていくことができるようになります。

発達障害にはいくつつかの種類があります。代表的なものには自閉スペクトラム症、注意欠如多動性障害、学習障害が挙げられます。次回からそれぞれについてご紹介いたします。

児童精神科医

北畑 歩